ニュースレターNO.13　　2019年12月15日発行

日本軍「慰安婦」問題・関西ネットワーク

日本はこれでいいの?!
歴史を否定し、民主主義を壊す安倍政権に終止符を！

関西ネットは今年も結成 10 周年記念行事をはじめ、水曜集会、講演会、映画上映会などに加え、初めてのインドネシアの被害者訪問など、ひたすら駆け抜けてきました。その過程で次世代メンバーとの出会いや運動の広がりを感じた反面、「慰安婦」問題解決への道のりの厳しさも痛感しました。安倍政権によって政治の腐敗と民主主義の崩壊が一層進んだ一年でもありました。

日韓関係の悪化は経済・安保問題にまで広がりましたが、そもそも出発点は日本政府の徴用工問題への対応にあります。昨年 10 月 30 日、韓国大法院が徴用工被害者の日本企業への慰謝料請求権を認めると、日本政府は直ちに「日韓請求権協定で解決済み」「国際法違反」として韓国政府に抗議しました。しかし、「日韓請求権協定」で個人の請求権は消滅しないというのが日本政府の従来の立場であり、また、国際法は被害者中心主義による解決を求めており、むしろ日本政府が国際人権規範に反していると言えます。

そうしたなか韓国で、文喜相韓国国会議長による日韓の企業、国民が寄付をする新たな財団をたちあげ、強制徴用・「慰安婦」被害者に慰謝料を支払うという包括的解決案が浮上しました。日本政府の責任を棚上げにし、お金の問題にすり替えて被害者を黙らせる提案は誰からであっても認めるわけにはいきません。12 月 4 日、関西ネットも参加し、12 か国 44 団体による「『文喜相案』の即時破棄と被害者中心主義の原則に則った日本軍性奴隷制問題の解決を求める世界良心宣言」を発表しました。人権問題を外交案件のように処理することは「日韓合意」における反省から何一つ学んでいないことを示すものであり、断じて許されません。

安倍政権は「日韓合意」以降、「慰安婦」問題は終わったとしながら、国内外で歴史的事実の否定を強いてきました。しかし、12 月 6 日、旧日本軍の要請に応じて外務省が計画的に女性を集めて現地に送り込んでいたことを示す新たな公文書23件を内閣官房が収集していたことが明らかになり、軍や外務省ら国家ぐるみの関与は否定し得ないものとなりました。

今年、伊藤詩織さんの裁判や性暴力に対する無罪判決が続いたことをきっかけに「フラワーデモ」が各地でスタートしました。性暴力被害者が勇気をもって被害を語り始めたことで「#MeToo」「#WithYou」の声が広がっています。まさに 28 年前、金学順さんが名乗り出て、日本軍性奴隷被害者の声が社会を揺るがし、人々の意識を少しずつ変えたように、変化が始まっています。

私たちは引き続き日本軍性奴隷問題解決とあわせて、現在もなお続いている様々な女性に対する性暴力を根絶するため、ともにつながり、人権が守られる社会をつくっていきましょう。そして、安倍政権を終わらせましょう！

北海道新聞 (2019.12.7) 201

「兵70人に酌婦1人要す」
「軍用車便乗の特殊婦女」

公文書記述 専門家「軍の慰安婦関与裏付け」

旧日本軍の従軍慰安婦問題を巡り、関連する公文書の収集を続ける内閣官房が2017、18年度、新たに計23件を集めたことが6日、分かった。うち、在中国の日本領事館の報告書には「陸軍側は兵員70名に対し1名位の酌婦を要する意向」「軍用車に便乗婦子したる特殊婦女」などの記述があった。「酌婦・特殊婦女」は別の報告書内で「娼妓」と同様、「廃業を強いられ」と説明され、慰安婦を指している。専門家は「軍と外務省が国家ぐるみで慰安婦を送り込んでいたことがはっきり分かる」と指摘する。

1993年の河野洋平官房長官談話が認定した「軍の関与」を補強する資料と位置付けられるが、安倍政権は同談話を継承する一方、「軍」や「官憲による」わゆる強制連行を直接示す記述は見当たらなかった」との立場を取る。

内閣官房の担当者は共同通信の取材に「今までの政府の見解と変わらない」と説明した。

公文書関係件のうち13件は外務省の「支那渡航婦女の取締に関する件」と題した昭和の野村吉三郎外相宛ての機密文書が占めた。いずれも在中国の領事館と本省の連絡内容だった。

南京（山東省）総領事から外相に宛てた報告書は、日本軍の進出により現地の風俗が乱れ、「陸軍側は兵員70名に対し1名位の酌婦を要する意向」との記述がある。

青島（山東省）総領事の報告書では「陸軍側は酌婦合計150名位増加を希望」「陸軍側は兵員70名に対し1名位の酌婦を要する意向なるが」と書かれている。

関東学院大の林博史教授（現代史）は「軍が主体的計画的に女性を集めようとしていたのを裏付ける資料。領事館を通じて外務省に伝達している」と話している。

の女性が増加していると記載。「内地人娼妓一〇八、同酌婦一一〇、鮮人酌婦四二八の多きに達せり」。「軍の前導する場合を慰安婦として4月末までにはなかなかと迄地ならOOの特殊婦女を集中」と記述されている。さらに、徐州占領後には「軍用車に便乗」して1885人が南下したと記している。

＃ ナビ（蝶）に平和と希望をのせて
日本軍「慰安婦」問題・関西ネットワーク 10 年、そしてこれから
2019/7/13

関西ネット結成 10 年を迎えた 7 月 13 日、10 年を振り返り、新たな出発を期すため「つどい」を開催しました。吉元玉ハルモニが出演されているドキュメンタリー映画「アポロジー（謝罪）」の上映には約 80 人が、午後のつどいには 120 人あまりが参加しました。

（一部）吉元玉ハルモニ ミニコンサート＆ 尹美香さん 講演

10 年間の活動を振り返るオープニング映像は、これまでお招きしたサバイバーの証言や、妨害と圧力をはねのけて継続してきた水曜集会や様々な取り組み、さらに橋下市長との面談を求める金福童ハルモニの毅然とした姿など、関西ネットのあゆみを紹介しました。
主催あいさつでは、金学順さんの証言から 28 年という歳月を経てもなお解決されず、加害の歴史に向き合おうとしない日本社会の在り方を問う一方、集いのために集まり、準備してくれた仲間や若者たちの姿に希望を持ちながら、あきらめることなくこれからも闘っていく決意を述べました。

ＣＤデビューもしている「歌手」
キルウォノクハルモニ歌声は参加者を
しあわせな気持ちにさせました

今回、韓国から吉元玉ハルモニと、「日本軍性奴隷制問題解決のための正義記憶連帯」の尹美香理事をお招きしました。吉元玉ハルモニのミニコンサートは、ハルモニの映像をバックに、故郷・平壌の歌の「豆満江」や「恨み多き大同江」などを披露してくれました。
尹代表から「どうして歌が好きなの？」と問われると「歌があるところには平和があるから」と答えられ、大きな拍手が起こりました。
尹代表は「戦時性暴力サバイバーに#With You と希望を送る―日本軍性奴隷制問題解決のための 30 年闘争」をテーマに講演しました。挺対協発足から 30 年を振り返り、被害者の人権回復とは戦争のない平和な社会を築くこと、被害を生まない社会の実現であり、男性中心社会の構造的差別や暴力を変えていくことだと強調しました。そのために、被害者自らが人権運動の主体となって声をあげてきたように、私たちが軍国主義を根絶し、システムを変え、連帯と希望をつくりだそうと呼びかけました。

（二部）文化公演＆次世代の本音トーク

次世代メンバーで企画・進行を担った２部は、韓国・朝鮮の伝統音楽「サムルノリ」演奏、水曜集会でお馴染みのデュオ「たこちゃんきょこちゃん」による素敵な歌声。

続いて「志遠」のキムソッセさんによる感情のこもった歌声は、被害者ハルモニの体験と心の痛みに寄り添い作詞・作曲されたもので参加者の涙を誘いました。

続いてのステージ「若者の本音トーク」では、パネラー・コーディネーター共に次世代メンバーが務め、日本軍性奴隷制問題を中心に同世代で様々な議論が展開されました。初めて顔を合わすメンバーもおり、国籍や性差による立場の違いを超えてのやりとりは有意義なものでした。フィナーレは青年有志団体「ハンマウム」によるプンムル演奏が行われ、次世代への継承が求められる今、この企画を通して繋がった若者の想いを今後もしっかりと見届けていきたいと思います。

（三部）交流会

全国行動共同代表の梁澄子さん、VAWW RAC の中原道子さん、参加者の皆さんからハルモニ達との思い出やこの日の感想、これからの決意などを話していただきました。

今回の取り組みを通して次世代の人たちと出会い、解決に向けた取り組みを共有し合うことが確認できたと思います。

8.14 日本軍「慰安婦」メモリアルデー in Osaka 2019

～ 希望のバトンをつなぐ ～

2019/8/12

8月12日午後、「希望のバトンをつなぐ」と題して集会を開催しました。あいちトリエンナーレ2019企画展「表現の不自由展・その後」の突然の中止や、韓国徴用工問題の大法院判決をめぐり、日本政府が韓国をホワイト国から除外したことなどもあって、市民の関心は高く、会場は170名を超える人々で熱気に包まれました。

最初に、ソウルの日本大使館前水曜集会1000回を機に「韓国挺身隊問題対策協議会」が制作した映像「希望へとはばたく蝶～20年の歴史　ハルモニの平和」を上映。金学順さんの名のり出から始まった20年間の解決運動の歩みと、水曜デモの歴史、「平和の碑」の意味をあらためて振り返りました。

続いて、今年のキボタネツアーに参加した2人の大学生から、様々な追悼施設や博物館を訪ね、韓国の学生らと交流して感じたこと、被害者への思いなどが語られました。この悔しさや怒りの気持ちを同世代にどう伝え、つなげていくのか、今後の自分自身の課題として真摯に向き合う姿勢に、参加者から熱い拍手が送られました。

休憩を挟んで、7月13日関西ネット10周年の集いを機に制作した10年間の運動を振り返る映像を上映。合わせて、集い当日の写真や映像を通じて、サバイバーの吉元玉（キル・ウオノク）ハルモニと尹美香（ユン・ミヒャン）「日本軍性奴隷制問題解決のための正義記憶連帯」代表のやり取り、ハルモニの歌う様子、尹美香代表から関西ネットに送られた言葉など、様々な場面を紹介しました。参加できなかった人もほんの少し当日の雰囲気を楽しめたのではないでしょうか。

方清子関西ネット共同代表は、あらためて金学順さんの勇気をたたえ、その歴史的意味は現代の性暴力社会において重要性を増していると語りました。そして、「表現の不自由展・その後」に関して発せられた、大阪市長や名古屋市長らによる、「慰安婦」問題は完全なデマ、「少女像」は日本国民を傷つける、などの発言は、アベ政権忖度発言でもあり、扇動ともいうべきものと批判しました。

続いて「性暴力を許さない女の会」よりのアピールでは、7月にあった伊藤詩織さんの裁判の様子や、この間、強制性交等致傷罪や父親からの性的虐待、準強姦罪に対して無罪判決が続いていることを例に、驚くほ

ど男性中心の日本社会の現状が厳しく批判されました。性暴力を容認し被害者の責任を問うことがいかに不当か、問題をわかりやすくユーモアを交えて語る言葉に、共感の声がひろがりました。

「表現の自由」は民主主義のかなめ
「少女像」への攻撃止めよう
女性の人権、侵害許さない
戦時性暴力ない世界作ろう
「Me Too、 With You」「Me Too、 With You」
今こそみんなで声挙げよう

最後に第７回８・14 日本軍「慰安婦」メモリアル・デーに際して発表された全国行動のアピール文を読み上げ、参加者の賛同を確認して集会を終えました。

会場から中之島公園までのパレードには、猛暑の中、約 100 名の市民が参加し、沿道の人々に「日本政府は加害責任を果たせ」「戦時性暴力のない世界を作ろう」「Me Too、With You」と、力強く訴えました。

アピール

第７回８・14 日本軍「慰安婦」メモリアル・デー
水曜デモ 1400 回　世界同時アクション

今年もまた８・14 日本軍「慰安婦」メモリアル・デーがやってきました。28 年前の今日、金学順（キムハクスン）さんの勇気ある名のり出は、女性の人権回復への道に一筋の灯りをともしました。

理不尽な暴力の下で人生を奪われ、苦痛の中で生きてこられた金学順さんが名乗り出を決意したとき、「私はこのことのために今日まで生きてきた」と語っています。この言葉の先にあるのは、二度と誰にも同じ苦しみを背負わせない、そのためにこれからの人生をかけて闘うという強い意志だったのではないでしょうか。アジア各国で多くの被害者がこの時を待っていたかのように後に続き、日本政府を告発しました。しかし、その後も日本政府からの被害者一人ひとりへの謝罪や賠償はなく、それぞれの国での差別と偏見、無関心が被害者たちを一層苦しめました。

水曜デモでマイクを握った金学順さんが「娘たちよ、しっかりしなさい！」と声を張りあげて訴えたのは、「これはあなたたち自身の問題なのだ」という心からの叫びであり、それは時代と国境を越えて私たちに向けられた言葉だったのだと、今あらためて痛感します。

金学順さんの名のり出とともにソウルの日本大使館前で始まった水曜デモは、今日 2019 年８月 14 日、1400 回目を迎えます。サバイバーたちが生涯をかけて女性の人権、性暴力のない社会の実現を訴え続けてこられたことに、いま世界中で共感が広がり、その記憶を次世代に引き継ぐための様々な努力が積み重ねられています。

ところが、最も歴史から学ぶべき当事者であり、加害国である日本では歴史を否定し、教科書から削除し、被害者の存在すらなかったことにしようとする動きが激しくなっています。日本政府は、被害国を含め各国に建てられた「平和の少女像」や「メモリアル碑」に対して国家予算を投入し、外務省や大使館を通じて非難、妨害、撤去させる行為を繰り返してきました。

８月３日、あいちトリエンナーレ 2019 の企画展「表現の不自由展・その後」が中止に追い込まれましたが、その背景もまた同じ流れであると言えるでしょう。補助金交付の再検討を持ち出して圧力をかけた官房長官、「平和の少女像」について、根拠も示さず「日本人の心を踏みにじる」「反日の像」「完全なデマ」「日本人をさげすみ、おとしいれる」などと平然と被害者を侮辱し、ヘイト・スピーチを繰り返した河村名古屋市長および松井大阪市長と吉村大阪知事ら政治家たち。それに追従して脅迫で展示を中止に追い込んだ右派市民。

政権の意向から外れる言動や自由な表現活動は認めないとする姿勢は、かつて戦争へと突き進んだ時代のことを思い起こさせ、深い危惧の念を抱きます。

女性の権利や人権を否定し、支配下に置こうとする人々の下劣さを許すことはできません。倒錯した被害者意識をあおる動きに危機感を持ち、声をあげる市民らの動きも確実に拡がっています。戦時性暴力の根絶と女性の人権確立は国際社会の共通の目標です。私たちは世界の仲間と連帯し、「戦争のない平和な社会」の実現のために努力を続けていきます。

2019 年８月 14 日

日本軍「慰安婦」問題解決全国行動
共同代表　梁澄子　柴洋子

「表現の不自由展・その後」 松井大阪市長の「慰安婦」問題への暴言に抗議 2019/8/9

「あいちトリエンナーレ２０１９」の企画展「表現の不自由展・その後」は開幕からわずか３日で中止されました。展示された「平和の少女像」の撤去を求めるテロ予告や脅迫電話が集中したためでした。菅官房長官による補助金交付の見直しを示唆する圧力発言、松井大阪市長や河村実行委員会会長代行（名古屋市長）による検閲発言が脅迫をエスカレートさせ、大村実行委員会会長（愛知県知事）は犯罪である脅迫に抗して毅然とした対応をとらないまま展示を中止しました。

「平和の少女像」展示を知った松井大阪市長は、８月１日に河村市長に電話をし、2日に現地を視察した河村市長は「どう考えても日本国民の心を踏みにじるものだ。税金を使ってやるべきものではない」として、大村実行委員長に中止を求めたと報じられました。松井市長は「われわれの先祖がけだもの的に取り扱われるような展示物を、国民の税で展示されるのは違う」「日本人をさげすみ、おとしいれる展示」と言い、「慰安婦」問題については「完全なデマ」「軍の関与で強制連行された慰安婦はいない」などの発言を繰り返しました。

８/９ 松井大阪市長に対する申し入れと抗議行動

松井市長の暴言は、「慰安婦」問題の歴史的事実を否定するものであり、被害者の尊厳をまたしても傷つけるものです。関西ネットは、橋下元市長、吉村前市長と日本維新の会の大阪市長が繰り返してきた歴史歪曲と人権侵害に対して抗議を続けてきましたが、今回も抗議文に団体賛同を募り松井市長に申し入れました。

賛同はわずか22時間の間に全国から80団体から寄せられました。この事態に対する関心の高さと、松井市長発言に対する驚きと怒りの大きさを感じました。

緊急の呼びかけにもかかわらず40名を超える市民が参加し、市長への申し入れと市庁前でスタンディングを行いました。

政策企画室に抗議文を伝達し、以下の私たちの意見を伝えました。

・「平和の少女像」及び「慰安婦」問題に対する市長の認識は日本政府の公式立場からもかけ離れており、記者会見での発言はまさにヘイト・スピーチそのもの。大阪市のヘイト・スピーチ条例に違反するばかりか、右派の攻撃を扇動するものだ。

・橋下市長以降、歴代維新市長は「慰安婦」問題を真っ向から否定し、女性の人権を踏みにじる言動を繰り返している。

・「日本人を蔑み、陥れる像」など、アベ政権と違う意見は認めず、人々を戦争へと向かわせた戦前を思い起こさせる言動だ。

・明確な根拠も示さず「慰安婦」問題を「完全なデマ」と決めつける、こんな市長の下で人権教育なんてできない！

再開を求める地元市民に連帯

展示中止の直後に県民の会が結成され、再開をもとめるスタンディングが連日行われました。そこに関西ネットの有志が参加したり、9月22日の現地市民集会に参加し、アピールとデモで連帯しました。

「表現の不自由展・その後」は様々な働きかけにより、閉幕前の6日間、制約を受けながらも再開されたものの、加害の事実を直視せず、表現の自由を許さない歴史認識と女性への人権侵害が日本の課題であることを再認識させるものでした。

松井一郎大阪市長
日本軍「慰安婦」問題への暴言に抗議し、謝罪と撤回を求めます！

「平和の少女像」が展示された国際芸術祭あいちトリエンナーレ2019の企画展「表現の不自由展・その後」が、開幕後3日目の8月3日、実行委員会（実行委）によって中止されました。実行委会長の大村愛知県知事はその理由を、「テロ予告や脅迫電話などがあり、安心して見てもらうことが難しいから」と述べていますが、脅迫は犯罪です。私たちは、自分の意見や考えと違うからといって、言葉であっても暴力を使って封じようとすることには反対です。

また、今回の企画展に対しては、菅官房長官が補助金交付の再検討に言及するなど公的立場にある政治家たちが中止の圧力を平然とかけています。こうした行為が脅迫電話などをエスカレートさせることにもつながったのではないでしょうか。私たちは、とりわけ、松井一郎大阪市長の日本軍「慰安婦」問題に対する暴言に抗議します。

8月2日、実行委会長代理の河村たかし名古屋市長は「表現の不自由展・その後」展を視察し、「どう考えても日本国民の心を踏みにじるものだ。税金を使ってやるべきものではない」と、驚くべき発言を行い、その後、会長の大村知事に対し、展示の中止を求めたと大きく報じられました。河村市長にそのような行動を促したのは、松井大阪市長です。8月1日、松井市長はツイッターに「にわかに信じがたい！河村市長に確かめてみよう」と電話連絡をした様子を書いています。

そして、松井市長は8月2日、「われわれの先祖がけだもの的に取り扱われるような展示物を、国民の税で展示されるのは違う」と、市役所内で語っています。さらに8月5日の会見で、展示内容について「事実ではない、デマの象徴の慰安婦像」「日本人をさげすみ、おとしいれる展示」「表現の自由とは言え、事実とかけ離れた単なる誹謗中傷的な作品」と言い、「慰安婦」問題については、「完全なデマ」「朝日新聞が誤報だったと謝罪した」「軍の関与で強制連行された慰安婦はいない」「あの慰安婦像は強制連行され、拉致・監禁されて性奴隷として扱われた慰安婦を象徴するものだからデマだ」などと、言いたい放題でした。記者に「平和の少女像」だと指摘されると、「名称を変えただけ。何とでも言える」「日本人を侮蔑する像の一つであり、日本人が拉致・監禁して性奴隷にしたというデマを象徴する像に変わりはない」と言い捨てています。

一方で「河村氏も日本の軍だけが慰安婦制度をやっていたわけではなく、戦時下の女性の人権侵害だという思いを持っている」とも述べています。まさに戦時下の女性に対する性暴力、人権侵害を繰り返させないために被害者は名乗り出たのであり、「平和の少女像」は戦時性暴力の凄惨な歴史を記憶し、繰り返させないという被害者らの意志を象徴するものです。「平和の少女像」に投げつけられた侮蔑の言葉や「他国もやっている」と正当化する姿勢は歴史に向き合い、女性の人権を顧う態度からはかけ離れたものです。

日本維新の会に所属する大阪市長は、2012年8月以降、「慰安婦」問題に関して暴言を続けています。橋下徹元大阪市長は、「慰安婦制度が必要なのはだれだってわかる」、「沖縄の米軍司令官に、もっと風俗を活用するよう勧めた」などと発言し、国際社会から大きな非難を浴びました。吉村洋文現大阪府知事も、市長であった2018年9月、女性の人権を祈念するメモリアル碑設置と公有化に抗議して姉妹都市関係を一方的に解消しました。今回も自らの姿勢を顧みることなく、「平和の少女像」を「反日プロパガンダ」として、大村知事に辞任を求めるなど恥ずべき発言を公然と行っています。

松井一郎市長にも、すみやかに暴言を撤回し、日本軍「慰安婦」被害者に謝罪することを求めます。

2019年8月7日

日本軍「慰安婦」問題・関西ネットワーク
共同代表　西村寿美子　奥田和浩　方清子

「終わらない戦争」上映会＆「北原みのり」さんトーク 2019/11/2

映画「主戦場」が同劇場でロングラン上映されていますが、その映画では伝えられない被害者の声を伝えたいと、シアターセブンで「終わらない戦争」を２回上映しました。 ドキュメンタリー映画「終わらない戦争」は４ヶ国５人の日本軍「慰安婦」被害者が、被害体験やその後の人生を語られていて、また歴史的な背景も含めて研究者や政治家等の聞き取りも収録されており、この問題の本質に迫る作品です。上映用 DVD の貸し出しも行っていますので、HP からお申込みください。

上映後のトークでは、キボタネ（※希望のたね基金 HP https://www.kibotane.org/） の理事でもある北原みのりさんからお話を伺いました。

2019 年 3 月に性暴力被害に対する不当な裁判判決が続き、声をあげた被害者を黙らせるような声が上がったため、4 月 11 日に東京駅で被害者への連帯と共感を表現できるように花を持って集まろうと「フラワーデモ」を呼びかけたそうです。最初は集会に来てくれた人が語るということは想定していなくて、勇気のある人が自分の性暴力を話せると思っていましたが、思いや体験を語ってくれる人が 2 時間途切れなかったとのこと。一方で、被害を話せる場を作るためには聞く側が変わらないといけないと話されました。11 月には全国 27 か所で「フラワーデモ」が開かれるということで、話す人と聞く人が可視化されて日本社会が変わる兆しではないかと思います。

また、日本軍「慰安婦」被害者のキム・ハクスンさんが名乗り出ることができたのは、性暴力被害の声を受け入れることができる韓国の社会的背景があったことを話されました。

2015 年 12 月の「日韓合意」で韓国政府の「和解といやし」財団はなくなり、市民が立ちあげた「正義記憶」財団ができましたが、被害者は「和解といやし」ではなく「正義と記憶」を求めています。そして、二度と自分たちのような被害がおこらないための象徴が少女像ではないでしょうか。

「あなたの声を信じる」という聞く力をつけて、11 日は「フラワーデモ」に、第 1 水曜日には大阪駅前水曜集会に集まりましょう。

「インドネシア・スラウェシ島の被害者を訪ねて」 2019/9/13~18

アジア太平洋戦争において、日本軍は3年半にわたってインドネシアの島々を占領しました。その間にインドネシアとオランダ系の女性たち、植民地などから連れてこられた多くの女性たちが性奴隷としてすさまじい性暴力被害にあいました。被害の証言は民間による聞き取り調査や資料の発掘によって実態が明らかにされてきましたが、いまだ国家による真相究明や被害者支援は実施されず、被害者の生活支援などの取り組みも行われないまま、高齢となられ病気やトラウマに苦しんでおられます。

そうしたなか、日本軍「慰安婦」問題解決全国行動主催の旅に関西ネットからも参加しました。

2016年来日されたチンダさんの自宅で

現地で同行してくれたのは、南スラウェシ州元従軍慰安婦支援協会の代表でインドネシア元兵補中央連絡協議会の南スラウェシ州代表のラヒムさんと、日本にも来られたことのある前代表ダルマウィさんの娘ヌールさんです。

被害者が置かれている現状と支援団体の現状

今回、6人の被害者とお会いしましたが、どの被害者も軍駐屯地近くで連行されています。そして、被害にあった後、家族と暮らしている人は、生活も安定していましたが、家族に受け入れてもらえなかった人は、余裕のある生活をされていませんでした。

現在、何名の被害者と関わりがあるかは、支援団体でもきちんと把握できていないのが現状です。

そして、お金を稼ぐこともできない被害者が多いため、経済的な支援がいちばん必要なことだと、支援団体の人たちは話されました。

ドリさんの自宅で

今回の訪問では、現地の人たちに、あたたかく迎えていただき、歓迎されていると感じましたし、次回の訪問の期待もされている様子でした。

また、現地の女性とSNSでつながったことも大きな成果と言えます。そして、地域で沈黙している被害者の出会いに調査員の女性が関わっておられ、被害者への共感の視点があることも知ることができました。

カロシの事務所でヌライニさん、ジャヘランさん 支援団体の人たちと

今後について

今回の次世代の若者の参加があり、活動の継続・継承について明るく期待できるものであったといえます。

旅を終えて、多くの人にインドネシアのスラウェシの被害者の現状を知ってもらい、経済支援や次回訪問も検討するなどの取り組みをしなければならないと感じました。

韓国の ＃MeToo 運動と新たなフェミニズム
ー「慰安婦」問題解決運動が切り拓いたものー
李ナヨンさん講演会　2019/10/8

2019年10月８日　韓国中央大学教授李ナヨンさんをお迎えしました。平日の夜の学習会でしたが、会場は参加者でいっぱいになり、このテーマへの関心の高さがうかがえました。

李ナヨンさんは、日本軍制奴隷制問題解決のための正義記憶連帯理事のお一人であり、日本軍「慰安婦」問題や、米軍基地村問題、性売買問題等の運動に参加し、当事者の聞き書きを続けてきた研究者であり、運動家です。2018年、ひとりの女性検事の告発から韓国社会にあふれ出した＃MeToo運動とその後の展開、韓国における新たなフェミニズム運動の波について報告されました。

70～80年代の軍事独裁政権下での抵抗と民主化を求めて闘った女性たちが、進歩陣営の中にあっても根強かった家父長的価値観の押し付けに抵抗する中で、さまざまな女性団体が生まれ、その一つが韓国挺身隊問題対策協議会でした。1991年の金学順さんの告発こそ＃MeToo運動の始まりで、それはまた、女性の権利を普遍的人権と主張する国際社会の流れとも連なったことを指摘、韓国における今日の＃MeToo運動に「慰安婦」問題は大きな影響を及ぼしてきたと語られるなど、大きな力と励ましのいただける内容でした。

一方で、当日のスライドおよび配布資料にある、女性たちが集会参加を呼び掛けるポスターの中に「生物学的女性のみ参加可能」という文字があり、会場よりトランスジェンダーに対する差別、排除ではないかという質問がありました。講師より納得のいく回答が得られず、時間の関係で議論を深めることもできませんでした。その場に当事者の方がおられた可能性もあり、傷つけたり、不快な思いをさせてしまったことを主催者として大変重く受け止めています。そのことに関連し、11月20日、トランスジェンダー生徒交流会世話人などをなさっている土肥いつきさんを運営メンバー会議にお迎えし、「問題の所在はどこか？　－L/G/B/Ｔs’のこどもたちの存在が問いかけるもの－」というタイトルで、お話しいただきました。引き続き学びを重ねながら、誰の人権も侵害されない社会をめざしていきたいと思います。

11.25 女性に対する暴力撤廃の国際デー」スタンディング
2019/11/21

「11.25女性に対する暴力撤廃の国際デー」を前に11月21日、天満橋駅前でスタンディング行動を呼びかけました。およそ30名の市民がむらさきのカバンやスカーフ、傘などを手に集まり、「暴力や性暴力のない世界をつくるために」のチラシ配布や「＃MeToo」「＃WithYoo」などのバーナーを掲げてスタンディングを行いました。マイクアピールでは、世界中で起こっている女性に対する暴力と不処罰の連鎖、日本軍「慰安婦」被害者の告発に端を発した「＃MeToo」が時代を超えて多くの人々に共感を得ていることや、自身の体験を話してくださる方もありました。

日本社会を取り巻くあらゆる性差別や性暴力、今も苦しんでいる人たちがいることに思いを寄せながら、そんな社会、意識を変えるためにいまこそ声をあげていこうと呼びかけました。

～ 2019年に亡くなった被害者～

辛く苦しい記憶、寂しい記憶、すべてを忘れ、安らかにお眠りください。

李ハルモニ （1925年～2019年1月28日）

17歳になった1942年ごろ職場の紡績工場からの帰り道で軍用トラックから降りてきた軍人に拉致され強制的に船に乗せられ、下関に連行されました。下関から再び満州へ連行され、日本軍性奴隷被害を受けました。ある日、突然日本兵たちが来ないことで解放されたことを知りましたが、何とか密航船である塩を運ぶ船に乗せてもらい帰国しました。 ハルモニは罪責の念と被害意識で生涯苦しみました。2018 年末から体調を崩され、最近になって悪化し、苦しみを耐えてこられた末に亡くなられました。ハルモニと遺族の意思により葬儀は非公開で執り行われました。

金福童ハルモニ（1926年～2019年1月28日）

1940年満14歳の時に戦場に連れて行かれ、日本軍性奴隷としての壮絶な体験を強いられました。
戦場を生き抜き、1947年にようやく帰郷を果たしました。しかし、その後も過去の記憶に苦しみながら過酷な人生を送られました。
1992年3月、元「慰安婦」であったことを明らかにしてからは世界各地を回って証言し日本政府の心からの謝罪と賠償を求めてきました。さらに、今も世界各地の武力紛争下で蔓延する性暴力問題を解決するため「ナビ基金」を設立、支援活動を展開してこられました。
ベトナム戦争で韓国軍によって性暴力被害を負った女性と子どもたちに対しても、「ナビ基金」を通して支援し、自ら謝罪もしました。
また、日本において朝鮮学校の子どもたちが差別的な制度によって学ぶ権利を奪われていることに胸を痛め、奨学金支援などを重ね、「金福童の希望」をたちあげました。南北統一を願い、戦争のない平和な社会を誰よりも強く願ったハルモニですが、その日を待つことなく旅立たれました。 ハルモニが切り拓いた道を私たちは多くの人々とともに歩んでいきます。

クァク・イェナムハルモニ（1925年～2019年3月2日）

全羅南道丹陽（タミャン）で生まれたハルモニは、日本軍の「処女供出」を避けるため結婚しましたが、結婚生活2～3カ月後に義妹が処女供出に行かなくてはならなくなると、嫁ぎ先はハルモニに代わりに行くよう求め、実家に逃げましたが、数日後に巡査により暴力的に連行され中国に連れて行かれ、1年半の間、日本軍性奴隷被害を受けました。解放後、朝鮮に戻りたくても戻れず、物乞いしながら中国安徽省の宿州で暮らしました。韓国へ60年ぶりに戻ってきたとき、両親はすでに亡くなっていましたが、両親は亡くなる瞬間まで、失った娘を忘れなかったそうです。中国にいる間も祖国の国籍を捨てず辛い人生を耐えてこられたハルモニですが、結局日本政府の謝罪の一言さえ聞くことができないまま亡くなられました。 しかしながら辛い人生を一生懸命に生きぬいたハルモニでした。

韋紹蘭（ウェイ・ シャオラン）さん（1920年～2019年5月5日）

中国桂林に暮らしておられた韋紹蘭さんは1944年24歳の時に日本軍兵士によって負ぶっていた娘とともに連行されました。 3か月にわたって慰安所に監禁され、日本軍の性奴隷としての生活を強いられました。監視の目をくぐって脱出、家に帰って日本兵の子を妊娠していることがわかり、息子を産みました。その後、親子は夫や親族、周りの人々から「日本鬼子」などと言われ、冷たい視線を浴びながら生きていかざるを得ませんでした。 2010年12月来日し謝罪と賠償を求めて請願書を提出し、関西にも来られ証言集会でお話を聴くことができました。 日本政府に正義を求めるという意志を明確に示されていましたが、最後までその答えを聴くことはありませんでした。

※韋紹蘭さんの証言は2008年、韓国で制作されたドキュメンタリー映画「終わらない 戦争」および、2014年中国で制作された「三十二」で観ることができます。

徐阿英さん（1920年～2019年6月2日）

16才の時に集落に侵略してきた日本軍に捕まり無理矢理日本軍の陣地に拉致され性奴隷被害を受けました。 1ケ月後、この地に展開していた革命武装勢力によって助け出されました。 しかし一週間後再び日本軍に捕まり、金華中山埠頭の日本軍の拠点、雅堂街の「慰安所」で、3 年間、性奴隷被害をうけました。日本軍から受けた屈辱的な記憶は深刻であり、身体と心に大きな傷を受けました。
徐阿英さんは、中国浙江省金華市で暮らしておられました。92才でした。

ジャン・ラフ・オハーンさん（1923年～2019年8月19日）

オーストラリア在住の日本軍性奴隷被害者ジャン・ラフ・オハーンさん訃報の知らせに世界各地で悲しみが広がりました。 96歳でした。
オランダ植民地下にあったインドネシアで生まれ、日本軍占領下で過酷な性奴隷生活を強いられたオハーンさんは、1991 年の金学順さんの名のり出を契機に自らも名のり出を決意しました。 日本軍性奴隷制被害の苦痛に打ち勝った生存者として自身の被害事実を公開証言されてきました。無反応の日本大使館前で堂々と謝罪を要求する韓国被害者たちを見て勇気を貰(もら)ったと、そして二度と同じ歴史が繰り返されないために立ち上がると決心をして世界各地を回り日本軍性奴隷制問題解決のために声をあげ続けました。

※ジャン・ラフ・オハーンさんの証言は2008年、韓国で制作されたドキュメンタリー映画「終わらない 戦争」で観ることができます。

楊桂蘭（ヤン・クイラン）さん（1920年～2019年8月21日）

楊桂蘭さんは湖南省岳陽県に 12 才で嫁ぎましたが、実家に帰る途中で日本軍に拉致され、付近の祠堂（お堂）に監禁されました。実家や親戚によって助け出されましたが、十数日の間被害を受け続けました。 中国大陸で記録された日本軍『慰安婦』制度で被害を受けた幸存者は１７人だけになってしまいました。

家族の意思により、すべて非公開ですが、8月4日にソウルのハルモニが、3月31日には大邱のハルモニお亡くなりになっています。ご冥福をお祈りいたします。

＜関西ネット会計担当より＞

昨年 12 月のニュースレター発送から今年 11 月末までに、計 36 万 5500 円の活動協力金やカンパをいただきました。皆さまのご支援により、この一年間も、資金面の心配なく、様々な取り組みができました。本当にありがとうございました。現在の会計残高は 30 万円余りとなっています。

来年 1 月から 4 月にかけてもパネル展や映画会など様々な企画がすでに決まっています。チラシを同封しているパネル展は入場無料ですから、会場費などの諸経費は関西ネット会計から負担します。来年度の活動に向けても、ご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

また、7 月 13 日関西ネット 10 周年の集いに際しても、全国の皆様から多大なご支援をいただき、本当にありがとうございました。

171 個人・27 団体から合計 47 万 2 千円の賛同金をお寄せいただいたおかげと、当日午前中の「アポロジー」上映会収入が 7 万円を超えたことにより、この集いから 28 万 5283 円の残額が生まれました。その使途について運営会議で話し合い、10 周年行事の目的の一つでもあった、運動を次世代につなぐことのために使おうと決めました。具体的には、今後、必要に応じて、運営会議で検討していくことになります。

現在この国で、「慰安婦」問題を取り巻く状況は厳しく、活動をもっと幅広く展開して、解決を訴えていかねばならないと考えています。皆さまと共に歩んでいけますよう、よろしくお願いいたします。

好評発売中！

100 円

関西ネット 10 周年記念
平和の碑 クリアファイル

お求めはメールでも OK です。

水曜集会に参加しよう！

毎月第一水曜日 19：00～ 場 所 梅田ヨドバシカメラ前

平和の碑リーフレット
無料配布してます！
こちらまでお問い合わせ下さい

＜ お知らせ ＞
2020 年 1 月の水曜集会は
第二週目の８日(水)開催です！

日本軍「慰安婦」問題・関西ネットワーク

〒540-0038
大阪市中央区内淡路町 1-3-11 ｼﾃｨｺｰﾌﾟ上町 402 市民共同ｵﾌｨｽ sora 気付
TEL：090-8383-4197
emai：ianfu_kansai_net-todoita-mail@googlegroups.com
ＨＰ：http://www.ianfu-kansai-net.org/ blog： http://ianfukansai.blog.fc2.com/